

私たちの熊本をどうぞよろしく



平成三年二月十一日付けて、歴代四十七代目、戦後では五人目の熊本県知事に就任された福島謙二知事。初登庁から十日ほど経った柔らかな春の日射しがふりそぐ日、ママさん特派員六人は、知事を囲んでのインタビューを行いました。期待いっぱいの中にもドキドキのママさんたち。福島知事に花束を渡して、少々緊張気味の面持ちで席につきました。知事がやさしい笑顔で語り始められると、すぐになごやかな雰囲気が広がりました。これからの抱負を中心に、知事の多彩な趣味、家庭の話題にも触れながら楽しい一時間になりました。



◆ ママさん
知事

ママさん特派員

VS

多彩な趣味を持つ 遊びの名人!?

◆ 知事に就任されてからは慌ただしい毎日かと思いますが、新しい知事の椅子の座り心地はいかがでしょう？
● 初めてのほうはお役所に入るだけで、なんとなくおっかなくて敷居が高く感じられるといいますが、私は大蔵省で二十四年間仕事をしましたし、労働大臣も経験していますから、ずっと座り慣れてい

るような気分で安心して座っています。ただ、就任直後といこうこともあり、日程が詰まっています、訪ねていらっしゃる方に、自由に満足にお相手出来ないのが残念です。

◆ そうしますと多彩な趣味に費やすお時間がなくなりそうですね。

● 本当ね。(笑)でも仕事ばかりやっている、ストレスがたまりますよ。だから、時々気分転換をやりませう。遊ぶのは名人なんです。そういえば、東京から碁盤とか将棋盤とかそういうものがやっそこちらに到着したんです。

◆ マージャンもお好きだと伺っています。マージャンにも段があるんですね。

● ええ、私のは、あくまで自称ですがね。マージャンにも正式な段があるんですよ。ただ実力が八、九割、運が一、二割で勝負が決まる囲碁や将棋と違ってマージャンは、実力が六割、運が四割。運の要素がどうしても強くなります。後ろから見ている、勝ち負けより、どの程度うまいかを評価して段を決めるんです。

◆ 勝負は時の運ともよくいいますしね。常に全戦全勝というわけにはいかないですよ。勝負には波がありますからね。人生も同じ。大なり小なり常に波がある。あがいてもどつにもならないどん底の時もあります。そういう時は、出来るだけ負けを小さくしてそのどん底から早く脱出することを考えなければなりません。その辺の見極めが勝負の決め手でもあるん

です。私には人生においては運がいい方ですよ。(笑)

◆ 将棋もお得意で三段の腕前をお持ちですね。尊敬なされる方は大山康晴名人ということですが、これには何か理由があるんですか。

● 大山さんは、将棋は一流、そして社会人としても大変立派な方です。三十年前からのおつき合いです。勝負をやってるとその人柄まで分かってくるんです。一芸に秀でた人というのは、本当に素晴らしい方が多いと思います。

◆ ところで、お忙しい中、奥様や子どもさんたちとのコミュニケーションは、どのうよにとっておられますか。

● いやあ、それを聞かれますとね、夫として父親として、全くの落第。大蔵省時代は国の予算編成の仕事をやっていたんですが、九月から翌三月、四月までは毎日夜中の二時、三時まで役所で仕事でした。国会議員になってからは、常に家内とは別行動で、月に一、二回夕食をとるのがやっと。それがこの十二月、一月は選挙だったからお互い朝早くから夜遅くまで走りまわってたんだけど、十時くらいになると必ず同じ屋根の下にいる。また、知事になってからは、天草で留守番をしてきていた母も呼んで一緒に暮らしています。初めて何というか家庭生活らしい生活が送れるようになりました。一番喜んでくれたのはおふくろでしょう。

